La Informilo de Nagoja Esperanto-Centro

センター通信 第286号　2017年11月23日発行

発行：名古屋エスペラントセンター Nagoja Esperanto-Centro

461-0004 名古屋市東区葵一丁目26-10ユニーブル新栄301号

公式サイト　http://nagoya-esperanto.a.la9.jp/

Facebookページ　https://www.facebook.com/nagoja.esperanto

郵便振替口座 00840-8-40765 「名古屋エスペラントセンター」

ワールド・コラボ・フェスタ2017のブース（8頁に報告）

目次

ザメンホフ祭案内 2

Mia Impreso pri Koreio（Suzuki Joŝihiko） 3

ソウルUKメモ（前田可一） 4

世界大会報告（猪飼吉計） 6

ワールド・コラボ・フェスタ2017を振り返って（後藤好美、山田義） 8

ガーボル氏、母校の南山大学を表敬訪問（猪飼吉計） 9

第104回日本エスペラント大会の出店報告（猪飼吉計） 11

会員近況 11

日誌・編集後記 12

ZAMENHOFA FESTO

2017 ザメンホフ祭

PROGRAMO

本の紹介

Vorto-Ludo
（単語ゲーム）

私のエスペラント人生

懇親会

など。。。

⬆昨年のザメンホフ祭から

2017年12月9日（土）　名古屋エスペラントセンター事務所

第一部　午後２時～５時

第二部　午後５時半～７時半（懇親会）⇐要予約12月5日まで

会費　第一部500円 / 第二部3500円

「本の紹介」「私のエスペラント人生」でお話くださる方を募集しています。詳細は下記へ

申込み・問合せ先

山口　眞一

メール syam-z@wa2.so-net.ne.jp　電話／fax 052-807-1198

主催　名古屋エスペラントセンター　名古屋市東区葵一丁目26-10　ユニーブル新栄301号

Mia impreso pri Koreio

SUZUKI Joŝihiko

Mi partoprenis en la 102a UK kiu okazis en la urbo SEULO de la 22a ĝis la 29a tago de julio.

Pri la kongreso ne malmultaj esperantistoj jam skribis kaj raportis. Tial mi skribos la alian temon pri la vizito al Koreio.

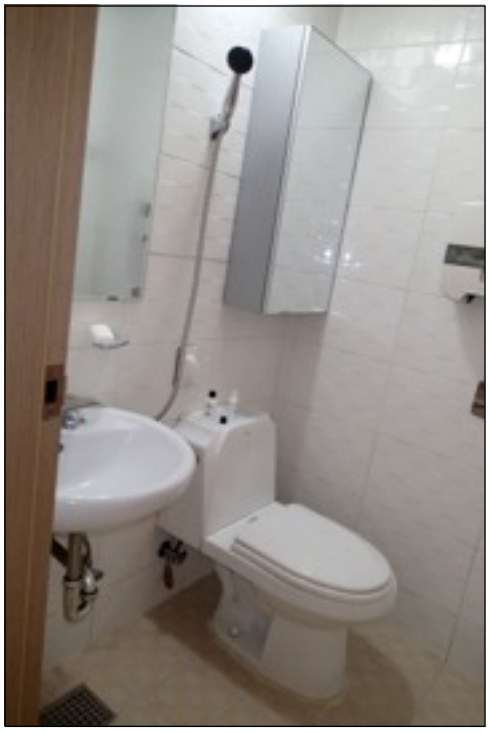
Por mi, ĉijara vizito al la lando Koreio estas dua fojo. Unua vizito estas antaŭ ĉirkaŭ 10 jaroj. Tiam mi restis nur tri tagojn kaj mi vizitadis nur turismajn lokojn kiel grupano per turisma buso kaj tranoktis en la kompare luksa hotelo.

Ĉijare mi restis naŭ tagojn kaj mi preskaŭ ne vizitis turisman lokon krom en la tago de ekskurso de UK.

Dum la restado mi uzis la publikan buson kaj subteran trajnon multfoje. Do tial mi profunde sentis kaj sciis Koreion.

Mi havis du grandajn impresojn. Unua estas malbona kaj dua estas bona afero.

Unua afero estas tiel ke mi surpriziĝis en la hotelo pri tio ke necesejo kaj duŝejo estas en la sama eta ĉambro kie oni ne povas uzi sidejon (necesejan kuveton) malsekigitan post la duŝo.



Mi ne scias ĉu iomete pli malkara hotelo estas samsistema. Mi supozas ke nur mia hotelo estas tiel ke akvo de duŝejo rekte malsekigas la necesejan kuveton.

Kompreneble estas multaj kie necesejo kaj duŝejo (banejo) estas en la sama ĉambro, sed oni povas aparte uzi duŝon kaj necesejon senĝene.

Dua afero estas tiel ke Koreio estas pli progresema ol Japanio pri tiuj punktoj kiuj estas admirata kun

surprizo

Unua estas ke oni povas eniri multajn muzeojn senpage kaj dua estas ke multaj klarigoj estas skribataj en korea, ĉina, angla kaj japana lingvoj. Tio estas ne nur en la muzeo sed en la stacidomo, eĉ sur rubujo je urbstrato, Kaj en la muzeo oni povas elekti la lingvon por aŭdi la klarigon, tial mi povas aŭdi japanlingve la klarigon pri la ekspozicio.

Mi amuziĝis kaj kontentiĝis aŭskultante japanvoĉan klarigon.

En Koreio oni kutime havas kaj uzas la karton per kiu oni povas envagoniĝi, enbusiĝi, entaksiĝi. Kaj oni aĉetas la karton ĉe stacidomo kaj eĉ ni japanoj povas aĉeti facile legante la japanlingvan klarigon.

Mi esperas ke antaŭ la tokia olimpiko ŝanĝiĝu Japanio tiel ke multaj eksterlandanoj povos amuziĝi kaj veturi en Japanio senĝene pri la diferenco de la lingvo.

ソウルＵＫメモ

前田可一

ソウルの秋の深まりはどのような感じなのだろうか。トランプ米大統領のアジア歴訪にかき消されているのだろうか。

ソウル大会の日々で初めて、夏のソウルの夕暮れ時間が日本より１時間以上遅いことに気がついて、やはりここはユーラシア大陸に属しているんだ、との想いを新たにした。

そして“Internacia Pontkunveno por la Unuiĝo de Korea Duoninsulo”の討議会を開催せずにはいられなかった韓国エスペランチストたちの悲願がいつの日にか具現化して欲しいものである。

分断国家であったヴェトナム、ドイツの統一が韓国及び北朝鮮の人々に遠くない将来における統一への希望を与えていることは、政治的な対立を脇に置けば、言語あるいは文化といった面からは十分に現実的であり、討議の場における２１カ国の共通認識としてあったように感じられた。

日本のエスペランチスト代表の松本宙氏からは東アジアの地政学的状況の推移に即して状況は変化し韓国の（北朝鮮の）次世代が解決することとなるのではないかの発言があった。

国家分断の固定化が７２年にも及ぶ現在、解決への道筋はなお遠く険しいとも思われるが、議長を務めたソ・ギルス氏の現状の追認ではなく、必ず希望を見出しあきらめない態度に迫力を感じた。

また、同氏のエスペラントは会議の発言者のなかでは一番聞き取りやすいエスペラントでもあった。

７月２６日のEKSKURSOの日には戦争博物館を訪れた。

１９５０年から53年における朝鮮戦争の歴史博物館となっている。

もちろん韓国側の視点から戦争全体を一望する狙いを持って創設されているのだが、血で血を洗う戦争を経て今の韓国がある訳であるが、いささか戦争の正義が前面に出すぎており統一朝鮮としてこの戦争をどう乗り越えていくのかという視点が欠落しているように思えた。

また、使用されている数値のデーター元が明示されていないのも気になった。

見学者の主体でありそうな戦争を知らない子供たちが自分たちの正義を宗教化しないで冷静に考える歴史博物館であって欲しいものである。

屋外に展示してある戦争中

の戦闘機やタンクは戦争ごっこ遊びをした世代には懐かしい。

プロペラ機からジェット機に変化していく時代でもあったのだ、朝鮮戦争は。

また、同日にはモスク（イスラム寺院）も訪れた。

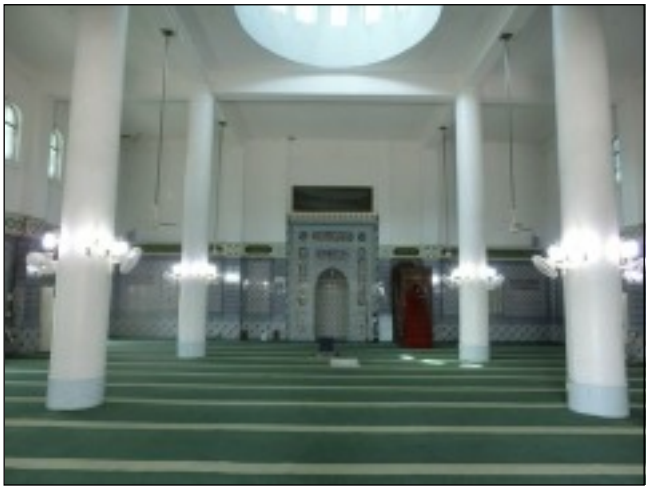
ソウルの案内図を見ていてモスクがあることをみつけた。

とりあえず行ってみると、イスラム居住区といえそうな一画に大きなモスクがありました。

イスラム居住区には当然のようにハラル（イスラムの教えで許されているという意味のアラビア語）の表示があるレストランや食品店があり、ムスリム衣装の女性もチラホラいて、モスクの中には韓国人ツアーとおぼしき団体もいました。

寺院の中に入ってアラーの神にお祈り・・・そういえば偶像崇拝のないのがイスラム教・・・これでいいのだがなんとなく物足りなくもあり。

どういう経過でイスラム街ができたのかは分からないが、イスラム教徒にとって韓国が住みにくい国ではなさげな雰囲気ではありました。



イラン人のエスペランチストに韓国ってイスラム教徒にとってどんな国と聞けばよかったと今思っている私がいます。

世界大会報告

猪飼吉計

世界大会は、ビアリストク以来となる。ビアリストクのときと同じく、三種の神器として、アコーディオンと一輪車とジャグリング道具を持参した。

一輪車はホテルと会場間の往復とキャンパス内の移動に使用した。ホテルと会場は一直線の緩い坂であったが、歩道は段差が多くて途中一二回落車した。本来は車道を走るつもりであったが、一旦道路を反対側に渡ってから、日本とは反対

の右側走行しなくてはならないので、断念した。じつは、一輪車にとっては、街乗りで右側走行はすくなくともわたしにとっては、しょうしょうの冒険である。

アコーディオンは、バンケードのとき、開式そうそうに、自分の席に座ったまま、やおらラ・トラビアータ(「乾杯の歌」)を演奏した。なんの打ち合わせもない、マイクも使わず、挨拶すらないゲリラ演奏だったが、それでも拍手をいただいた。

ジャグリングは、棍棒を三本もっていったが、館内に無造作に置いておいたら、ある日一本なくなっていた。残念だったが、なぜか翌日には戻されていた。明らかに誰かがいったん持ち去り、同じ人か、別人かによって戻されたと考えられるが、真相は謎のままである。

参加したプログラムで特筆するものとしては、まず Ateo の分科会が挙げられる。テーマはアジアにおいての Ateismo ということであったので、アジア人の発言も多かったのは異例だと言えよう。なお、わたしは無神論者ではないが、キリスト者やら仏教徒の分科会には興味がないぶん、興味本意で参加したわけだが、アレクサンドラ綿貫からまるで同志のように挨拶されてしまったが、誤解を招かないようにと、無神論者ではない、と彼女に対してきっぱりと返答したように思う。なお、彼女の撮った写真に、わたしの姿が大きく映り、しかも SNS に載ってしまった。

他の分科会としては、KER (セファール) の試験を受けたことである。これまで Katalin Kovacs ひとりがボランティアとして運営を切り盛りしてきたが、大会中の試験を最後に運営を降りるということだった。今後は、UEA が KER の運営を引き継ぐかどうかが、ひとつの焦点になってくるが、エスペラントの語学試験はすでに別に存在するので、 KER が今のエスペラント界に必要かどうかについては、わたしは否定的な考えである。なお、試験の結果は、連絡がないところを見ると、通らなかったらしい。

大会期間中は、ほぼ毎日のように雨もよいだったのは不運であった。やはり参加した菊島和子さんは、東アジアの情勢が先行き不透明な中、世界大会を東アジアでやるのは時期的にまずい、という意見で、案の定、常連が軒並み参加を見送った、と語った。なお、参加総数は 1100 人を超えたぐらいである。

ワールド・コラボ・フェスタ2017を振り返って

後藤好美

10月14日(土)、15日(日)名古屋栄オアシス21「銀河の広場」でワールド・コラボ・フェスタ2017が開催された。これは、愛知県、名古屋市、JICAなど国際関係機関の主催で、今年は61団体が出展し、名古屋エスペラントセンターも参加した。一昨年までは元名古屋エスペラント会の竹崎さんが出展してくれていた。

フェスタ総来場者数は7万人弱、当センターのブースには300人ほどが来場。200人近くにアプリチラシと日本エスペラント協会のチラシを配布できた。その中の二人に氏名・連絡先を書いてもらえた（現在は個人情報の関係でなかなか知らせてもらえない）。かなりの若者・大学生が興味を持ち、なかには熱心にこちらの説明を聞いてくれたり、宮沢賢治の親族の玄孫（やしゃご）という学生にも会うことができた。（残念ながらエスペランティストではない。）

多くのエスペランティストが応援に駆けつけてくれ、ベトナムのフォン・ブイさんと山田義さんの孫娘のアイカさんも張り切ってお手伝いをしてくれた。

ぜひ、来年も出展して、東海地方に足りない若者のエスペランティスト誕生を図りたい。

山田義

10月14-15日の「ワールド・コラボ・フェスタ 2017」に名古屋エスペラントセンターも出展準備をして参加した。会場は愛知芸術文化センター前のオアシス21「銀河の広場」。これは、中部地域の国際交流・国際協力・多文化 共生の活動を広げ、市民、NGO・NPO、企業、行政が協力して「学び、考え、行動する場」をつくりあげるという目的で開かれた。今年はブースが60ほど、来場者は７万人近くだったそうだ。

エスペラントのブースには新作のポスターや書籍などを並べた。チラシはQRコードを利用してエスペラントのことをスマホで簡単検索できるものを新しく作り200部配布。JEI　発行のパンフレットも。ブースでは２日間で300人近くが来訪。名古屋の元気なエスペラント関係者も関心を持って立ち寄ってくれた。その数、17人ほど。東京在住のベトナム人エスペランチストのフォン・ブイさんを招待して、ブースを盛り上げてもらった。出展参加費、新規ポスターなど印刷費、謝礼など合わせて約10万円を「竹崎睦子基金」を利用して援助を受けた。

ワールド・コラボ・フェスタ2017を終えて食事会

ガーボル氏、母校の南山大学を表敬訪問

猪飼吉計

10月30日(月)、ハンガリーのマールクシュ・ガーボル氏が、母校の南山大学の学長を表敬訪問しました。3度目となる今回の目的は、新著『A NANZANTÓL A NAMSANIG』を贈呈するためです。

朝、ホテルシルク・トゥリー名古屋に行くと、すでに藤本日出子さんとガーボル氏がロビーで待っていました。地下鉄の本山駅で乗り換え名古屋大学駅で降り、わたしが案内しながら南山大学までちょっとした登山です。ちなみに大学のキャンパスも、平地とは程遠くいくつもの起伏で成り立っています。大学そのものも、拡張と変貌を遂げていて、学生数も約2倍に増えていますが、ぎゃくに、相変わらず元のままの部分もあります。

最初に訪れたのは、山頂にあって当時のままの姿をとどめ、南山大学のシンボルとなっている神言神学院(大学とは別組織)で、いまでも静寂の中にありました。そこでは主に図書室で過ごしました。じつはわたしも学部は異にしたものの、当時そこでよく過ごしたものでした。しかし、ガーボル氏はなかなか図書室を立ち去ろうとはしません。じつは、氏にとってその図書室は特別な意味を持つことが、あとでわかりました。

神学院の後は、やはりもとの姿をとどめるロゴスセンター。じつは以前は大学とは別組織でしたが、すでに大学施設になっていて中にはキリスト教センターがあり、チャペルや図書室などがあります。

昼近くになったので、移転した学生会館の学生食堂で食堂をとったり、やはり移転して新装なった南山大学人類学博物館を見学しました。同行の藤本日出子さんには、名古屋大学からずっと、なにもかもが新鮮に映ったことでしょう。

予約時間に学長室に出向き、今年度着任したばかりの鳥巣学長と、はじめて対面しました。在学はガーボル氏とわたしと学長とで、たがいにほぼ同時代となります。会談には、わたしがエスペラント通訳を仰せつかることになりました。

会談によってわたしもようやく知ったのですが、ガーボル氏は、南山大学での学生時代は、貧乏学生であったので、夏休みに自国に一時帰国せずに、同じハンガリー人である、神学部の初代の図書室室長から、その図書室の司書補の仕事を紹介していただいたそうです。

また、在学中に友人の学生が病気にかかり、神言修道会の宣教師ヨゼフ・フライナデメッツ神父にとりなしの祈りをしたところ奇跡的に生き永らえることができ、それがもとでその神父は、のちに列聖されたのです。むろん大学関係者も列聖式に参列しましたが、じつは、ガーボル氏も息子と一緒に参列したそうです。そのほかにも、共通の知人の幾人かについても話が及び、わたしも通訳として貴重な時間を共有することができました。

なお、会談の最後で、学長がわたしたちの使用言語がハンガリー語であるものと思っていたことが判明し、わたしたち三人はエスペラントで知り合い、そもそもガーボル氏はエスペラントをつてに南山大学に留学した、と説明すると、学長は驚いた様子でした。

大学を後にしてのち、センターの他のひとたちと合流、ビストロ・ドゥ・ミツにて歓迎会を催しました。出席は本人も含めて6名。

[下記は南山大学のFacebookページより許可を得て転載しています]

【Nanzan News】

1982年から1983年に南山大学外国人留学生別科へ留学されていたハンガリー出身のマールクシュ・ガーボル氏が、10月30日（月）に鳥巣学長を表敬訪問されました。

マールクシュ氏は『A NANZANTÓL A NAMSANIG』を執筆され、出版された

著書を寄贈してくださいました。著書のタイトルに入っているNANZANは南山大学、NAMSANは韓国ソウルの南山のことだそうで、南山大学での経験が、ソウルの南山において一つの頂点を迎えた、という意味が込められた内容になっているそうです。マールクシュ氏は外国人留学生別科を修了後、南山大学での研究の成果をまとめ母国で博士を取得、日本語や日本経済、企業経営といった多岐に渡る記事を執筆されてきました。2012年には『赤い太陽と緑の星：南山大学1982』を執筆されており、こちらも寄贈してくださいました。

今回、本学卒業生でマールクシュ氏のご友人である猪飼氏らと共に南山大学を訪れ、鳥巣学長と歓談されました。

第104回日本エスペラント大会の出店報告

猪飼吉計

11月3日（金）から5日（日）まで、横浜市のかながわ労働プラザ内において、第104回日本エスペラント大会が行われ、名古屋エスペラントセンターでも、ひとつのテーブルによるブース出店を行い、ほとんどわたし一人で店番しました。

45タイトル、79点を持参し、なかでも、5冊持って行った Gon-Vulpo はすべて売り切れ、その次に Kiu ne estas en la lito? の3冊、そして「顔のない仲間たち」の2冊と続きます。なお、Tempo は1冊売れ、合計で19点売れ、売り上げ額として 22600円にのぼりました。

会員近況

来る12月31日は柘植巳知彦さんの三回忌にあたります。写真のテレフォンカードは彼が「ツゲ総合保険サービス」を自宅に開業していたころのもの。実直な仕事をしていました。なお、彼は晩年に数年分の会費をまとめて払ったため、規約上、再来年ごろまで維持員の資格を持つことになります。

日誌（9月最終週から12月初め）

9／22（金）	17時半から19時半	初級講習会
9／26（火）	16時から18時	読書会
10／6（金）	17時半から19時半	初級講習会
10／11（水）	18時から20時	勉強会（堀和子名義）
10／17（火）	16時から18時	読書会
10／20（金）	17時半から19時半	初級講習会
10／25（水）	18時から20時	勉強会（堀和子名義）
10／27（金）	18時から20時	センター委員会
10／30（月）	18時から19時	ガーボル氏歓迎会
11／8（水）	18時から20時	勉強会（堀和子名義）
11／10（金）	17時半から19時半	初級講習会
11／15（水）	18時から20時	勉強会（堀和子名義）
11／23（木）	17時半から18時	「センター通信」発送作業
	18時から20時	センター委員会
11／24（金）	17時半から19時半	初級講習会（予定）
11／29（水）	16時から18時	読書会（予定）
12／9（土）	14時から19時半	ザメンホフ祭（予定）

▶編集後記

今号でふれた、マールクシュ・ガーボル氏は、名古屋に留学していたので、センターの会員とも長い交流があります。今回の来日を機に、センターの会員にもなっていただきました。次号では、本人の自己紹介文を掲載する予定です。なお、ザメンホフ祭に参加されるみなさんのために、テーブルクロスをしつらえ、照明も新しいものに交換しました。みなさん、ぜひ、ザメンホフ祭においでください。なお、食事の手配がありますので、おはやめに予約をお願いします。

（猪飼吉計）

センターの会員（維持員）募集中

A:月500円 ／ B:月1,000円 ／ C:月2,000円 ／ D:月3,000円

ランクによる会員資格に差はありません。ランク別及び振込月数を明記して郵便振込（口座番号は表紙タイトル下）へお願いします。メールアドレスがあれば、それもあわせてご記入ください。